

OBB/BSS 最新動向

— TeleManagement World-AP in Tokyo, Japan レポート —

去る9月1日と2日の2日間にわたり、東京・品川のコクヨホールにて、情報通信サービスの運用管理に関する国際的な業界コンソーシアム「TeleManagement Forum」の主催による「TeleManagement World-AP in Tokyo, Japan」(TMW A-P)が開催された。TMW A-Pは、情報通信システムの効率的な運用管理を実現するためのOSS/BSS（オペレーション/ビジネス・サポート・システム）と、OSS/BSSに関わる事業判断責任者と専門家の勉強の場と情報共有を目的としたイベントである。

ここではOSS/BSSの最新動向として、TM Forumの活動やTMW A-Pの概要とともに、今回のTMW A-Pに参加した主な企業の出展内容を紹介する。

テレコム業界の市場動向

情報通信業界は、他のIT業界と同様に厳しい状況が続いている。昨今のテレコム業界の主な動向として、次のような事柄があげられるだろう。

- サービス提供価格の低価格化
- 市場での競争激化
- IPとモバイルへの対応
- バリューチェーンの拡大傾向

は説明するまでもなく、国内のブロードバンドサービスの価格が飛躍的に安くなってきていることである。は、昨今の情報通信事業会社のサービスが、従来の音声サービスからモバイルやブロードバンド、コンテンツ等へと多様化していること。この動きに伴い、同時に情報通信サービスプロバイダーの垣根がなくなりつつあることと、さまざまなサービスでプロバイダー間の競争が激化し、市場シェアの拡大に努めるよう

になってきていることである。は、多くのサービスプロバイダーがブロードバンド化への対応を検討しているが、キラーアプリケーションを提供できないまま単なるサービス提供を繰り返し、依然として付加価値のある新サービスの早期提供という課題を抱えていることである。そして

は、昨今、新規サービスプロバイダーが連携して新しいサービスを牽引していくなど、業種連携が活発化していることである。

運用管理システムの問題点 サービスプロバイダーの課題

このような動きが、情報通信サービスプロバイダーの運用管理システムにさまざまな影響を与えている。

まず、低コストかつ短期間で運用管理システムを構築することが必要となっていること。管理システムが固定化していると新しいサービスに

即応できない。また、新しいサービスへの対応だけでなく、既存サービスにおいても突然の業務量の増大に即応しなければならない。そのためには、市販パッケージを活用して実現することが理想的であり、初期構築時だけでなく変更も安価かつ短期間で行えることも重要である。

次に、ビジネスの変化に追従して運用管理システムも柔軟に変えていかなければならないこと。例えば、アクセスプロバイダー、サービスプロバイダー、コンテンツプロバイダーの3種のプロバイダーが相互に連携して顧客にコンテンツを提供するサービスを行う場合、サービスプロバイダー間でのサービスオーダー通知や事業社間の料金精算、そして、企業間のトラブルの切り分けといった運用管理情報を相互に提供しなければならない。そのため、さまざまな形態のバリューチェーンに対応できる柔軟な運用管理システムが必要であり、企業内と企業間の境界も明確かつ透明でなければならない。

また、これらの運用管理機能は、従来からある既存の運用管理機能と連携する形で構築しなければならない。例えば、あるサービスプロバイダーが新しいブロードバンドアクセスサービスを提供しようとした場合、そのサービスプロバイダーは、従来からの既存料金システムをもち、電話番号を基に顧客管理を行う一方で、新サービスでは、電話番号とは別の顧客IDを基に顧客管理を行うことが考えられる。このような場合には、運用管理システム間で顧客IDを変換

するような仕組みが必要である。

そして、料金システムに関しては、サービス対応ではなく顧客中心の統合化した料金システムが必要である。

運用管理システムの問題点 その他のプレイヤーの課題

一方、運用管理システムを構築する立場であるシステムインテグレーター、ソフトウェアベンダー、装置ベンダーは、それぞれ次のような問題点を抱えている。

システムインテグレーターの統合作業は、情報通信サービスプロバイダー固有やそのシステム固有である場合が多く、繰り返し適用できないという問題点を抱えている。標準となる統合システム、あるいはOSS/BSSアーキテクチャがあればよいが、サービスプロバイダーは、実際にはそれを受け入れない場合が多い。

ソフトウェアベンダーは、サービスプロバイダーとシステムインテグレーターがそれぞれ固有の枠組みをもち、共通性が存在しないという問題点を抱えているため、商品の仕様、開発、販売が困難になっている。また、1つの製品を大量に売るのは困難であることと、OSS/BSSの市場が以前ほど大きくないことにも不満をもちている。

装置ベンダーは、装置を提供する際に、装置の運用管理システムであるEMS (Element Management Systems) も併せて要求される場合が多い。EMSと上位のネットワー

ク管理システムやサービス管理システムとの統合化に多額の費用と期間を要するという問題点を抱えている。

問題点の解決に向けて

以上のような問題点を解決し、柔軟なOSS/BSSを構築するためには、次のような機能をもつことが有効な解決策となるだろう。

まず、OSS/BSSを構築するプロセスの定義を行うこと。プロセスは、実際の運用担当者意識を合わせる上でも必要であり、基本となるプロセスやプロセスフロー、プロセス間のインターフェースを明確化することは、オペレーターにもOSS/BSS開発者にも不可欠である。

次に、OSS/BSSサブシステム間のインターフェースを明確にすることが有効である。それには、企業内既存OSS/BSSとの接続だけでなく、他社のOSS/BSSと接続するためのインターフェースの定義も重要である。

また、最近のOSS/BSSは単にサービスや装置の監視や使用可能にするだけでなく、ROIを最大化するために販売管理システムや経理システム等と連携するような機能も求められている。つまり、社内システムのアーキテクチャを構築する場合、従来のTOM (Telecom Operations Map) のように、OSS個別に定義するのではなく、経理システムや売上管理システムなどのBSSも含めた企業システム全体のアーキテクチャを明確化する必要がある。

そして、OSS/BSS間で共有すべき情報モデル、データ項目を明確化すること。OSS/BSS間のインタフェースを決めるだけでは、システム全体で十分な相互接続運用性が確保できないので、それぞれのOSS/BSSの前提となる情報モデルを明確にしておくことが、OSS/BSS連携のためには不可欠である。

このように、プロセスとデータとシステムに焦点を当てるOSS/BSSアーキテクチャは、サービスプロバイダーだけでなくOSS/BSSベンダーや装置ベンダーに対しても、中長期的な経営戦略として極めて重要なものになっている。

TM Forum 設立と活動内容

情報通信サービスの運用管理に関する国際的な業界コンソーシアム「TeleManagement Forum」(以下、TM Forum)は、1988年にNMF(Network Management Forum)という名称で設立された。設立当初は、情報通信サービスの運用・管理に関して事業者間で共通の課題を検討し、業界の共通認識を共有するとともに実製品化と標準化を促進することを主な目的としていたが、業界と参加メンバーの関心の的が情報通信ネットワークのサービス管理の実現へと移行していくに従い、その名称をTM Forumに変更した。現在350社以上の世界中の主要情報通信サービスプロバイダー(NTT等のキャリアとISP)、情報通信機器ベ

ンダー、ソフトウェアベンダー、システムインテグレーターなどが正会員(メンバー事業規模により会費は異なる)として、情報通信ネットワークにおける効率的な運用管理の相互接続標準を策定するための国際標準の確立や、運用管理業界の活性化に向けた検討活動を行っている。

TM Forumの活動の土台となっているのは、メンバー企業から集められた技術者が約20のテーマに分かれて、情報通信ネットワークの運用管理のための相互接続標準の案を作成しているチーム活動である。

TM Forumの特徴は、単なる標準案の策定だけでなく、開発した標準案をそのメンバー企業内で実現し、その際に出てきた問題点を標準案へフィードバックして、より現実 に即した標準案の作成に取り組んでいるところである。

また、年2回の総会を欧州と米国で開催している。この総会には、毎回1,500~2,000名が集まり、メンバー間の情報共有やTM Forumの活動内容を公開する場とともに、運用管理に関わる業界のコンセンサスを作成する重要な場になっている。

最大の検討分野「NGOSS」

このTM Forumの最大の検討分野が、「NGOSS(New Generation Operations Systems and Software)」である。これは、次世代OSS/BSSのためのアーキテクチャフレームワークや分析に基づいた基本原理と方法論を提供するというものである。TM Forumでは、市販ソフトウェアの一層の活用と、新しい通信サービス導入を可能にすることを目的に、

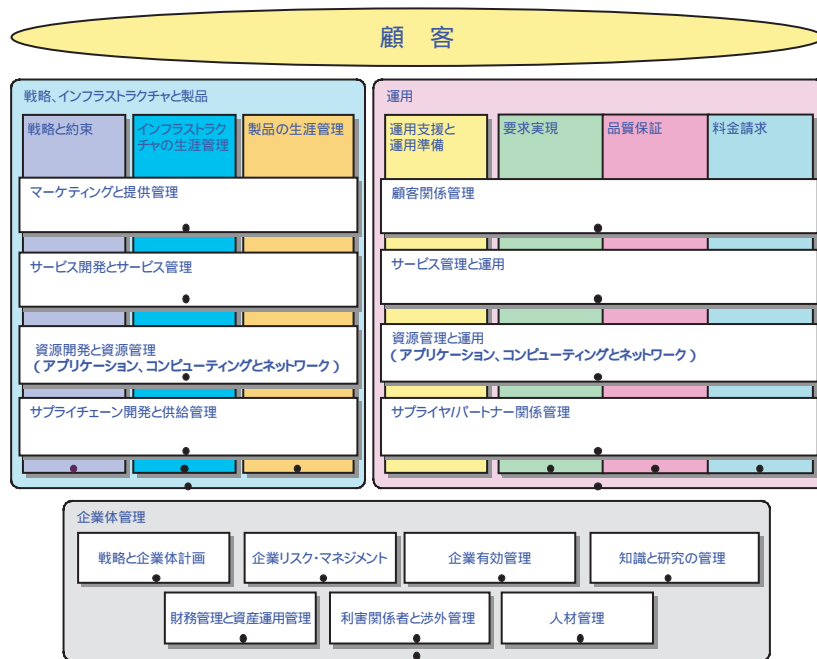


図1 eTOM (ビジネス・プロセス・フレームワーク)

柔軟な情報通信網管理システムの構築に向けた検討を、次の項目別に進めている。

eTOM：情報通信サービス事業者の全ての業務プロセスを再整理した Business Process Map（改良した Telecom Operation Map）

* 2004年、eTOMは、ITU（国際電気通信連合）の電気通信標準化部門である ITU-TのM.3050シリーズ勧告の承認を受けた。

SID：情報通信サービス事業者内で用いるシステム情報とデータモデルを整理した Shared Information & Data Model

TNA：各業務プロセスとそれを実現する各種ソフトウェアの動作条件を CORBA や XML、Java などの特定の技術に依存しない形で定義した Contract Interface & Technology Neutral Architecture

Compliance Test：からの NGOSS の基本フレームワークに沿ってできあがったソフトウェアの NGOSS の適合性を評価する試験

NGOSS Supporting Tools：NGOSS を動作可能とする情報バスや情報モデルの蓄積（Knowledge Base）などの各種ツール群

その他、移動体系の OSS/BSS の検討、SLA/QoS の検討などの各種チーム活動が並行して行われており、OSS/BSS に関する世界をリードするフォーラムとして、さまざまな活動が展開されている。

TMW A-P 国内とアジア太平洋地域の活動

日本国内における TM Forum 活動関係者による団体として、TMF-JMT（TMF-Japanese Management Team）がある。TMF-JMT は、TM Forum に参加しているメンバー有志により運営されており、主な活動は、年6回のペースで開催される勉強会と本会合による会議で、情報の共有と意見交換、各種対処方針の相談協議などが行われている。登録メンバーは、主に国内の通信産業系のサービスプロバイダーとベンダーで構成されていたが、グローバル化の進展に伴い、海外ベンダーの日本法人が新メンバーとして参加する傾向にある。

そして国内およびアジア太平洋地域の最大の活動となっているのが、「Tele Management World Asia-Pacific（TMW A-P）」である。TMF-JMT では、TM Forum 活動概要の紹介を目的とした「OSS セミナー」を1995年から開催してきた。その後、TM Forum の活動概要が国内でも十分に浸透し、より詳細な TM Forum の活動内容を紹介しながら、OSS/BSS を巡る市場の動きや、どのような製品が市場に提供されているか、といった一歩進んだ形でのセミナーの必要性が高まってきた。そこで2002年から名称を「TMW A-P」に変更し、2日間にわたる講演会と製品展示会の開催へと発展した。

TMW A-P は、過去3回、各2日間にわたり開催されてきた。1日目は OSS/BSS のビジネス面を中心に、

OSS/BSS の事業環境の理解と、広く情報通信事業全体の動向を理解してもらうことを目的とした講演が行われてきた。そして2日目は、1日目の講演を受けて、技術面でどのような課題があり、どのように取組み、そのように実現しようとしているのか、といったことに焦点を当てた講演が行われてきた。

今回の TMW A-P ではキーノートスピーチとして、Jim Warner 氏（TM Forum President）、Don Gibson 氏（Cramer Systems 社）、岡田忠信氏（NTT ネットワークサービスシステム研究所）による講演が行われた。中でも岡田氏は、NTT におけるブロードバンドサービス現状や今後の展開など、国内のテレコム業界を展望する内容を紹介した。また1日目のビジネスセッションでは、OSS オプザーバーの Larry Goldman 氏がアジア太平洋地域を中心とした OSS/BSS 市場について、マーケティング情報や OSS/BSS の活用状況、課題などを紹介した。

さらに TMW A-P では、講演に併設する形で展示会を開催し、国内外の主要企業から OSS/BSS に関わる製品が出展されてきた。OSS/BSS 製品に特化した展示会としては国内で唯一、最大であることから、OSS/BSS と OSS/BSS に関わる事業判断責任者と専門家の勉強および情報収集を行う場として活用されている。今回の TMW A-P でも、各出展企業から OSS/BSS に関連した製品や技術、ソリューションなどが紹介された。

株式会社 SL ジャパン (<http://www.sl-j.co.jp/>)

クリティカルなOSS/BSS情報を可視化するSL-GMSとコンパクトで高速なOSS Java GUIソリューション

米国SL社は、リアルタイムなイベントならびにプロセスの監視制御と画面表示を専門とするダイナミックGUI (Java、C++または.NET) でリードするソフトウェア・メーカーで、TeleManagement ForumのHMIチームや各種カタリストのGUI担当などで、積極的に活動している。

今回のTMW A-Pには、カンファレンス・ノートパッド・スポンサーとして参加し、SL社の比類なくコンパクトで高速なOSS Java GUIソリューションを実演した。併設の出展者セッションにおいても、「ネットワーク管理からサービス管理まで、SL-GMSによるOSSの可視化について」を提案した。

展示ブースでは、XMLやSQLなどのさまざまなOSSデータに接続するだけで可視化して、すぐに運用できる、職務役割別のカスタム・ダッシュボードとして「SL-GMS Enterprise RTView」を紹介した。これは、TMW Nice 2004におけるCDP (カタリスト開発製品) - PLM (製品ライフサイクル管理) カ

タリスト・ショーケースで、「リアルタイムなサービス保証管理の可視化」を実演したものである。また、無比類なJava「シン」クライアント技術によるネットワーク管理GUI開発ツール「SL-GMS J/Net」も紹介した。J/Netは、TMW Nice 2002における



画面表示イメージ

Fine Grain NGOSSカタリストでGUIを担当した製品である。

さらに、今回のTMW A-Pの初日、SL社とアジレント・テクノロジー社は、アジレント社がSL社のソフトウェアを使い、サービスプロバイダーのユーザー向けに、強力なWeb化対応の「NETeXPERT GUI」を開発することを発表した。

お問い合わせ先 TEL : 03-3423-6051

アイログ株式会社 (<http://www.ilog.co.jp/>)

ネットワーク監視・管理の簡略化とコスト削減を支援するアイログのOSS / BSSソリューション

通信業者は次世代OSS/BSSシステムの構築に大きな期待を寄せており、相互運用性を容易に可能にするソフトウェア・コンポーネントの組立て、およびカスタマイズに注目を集めている。アイログは過去15年にわたり、テレコム業界に特化したJavaとC++のコンポーネントの開発およびパッケージ化を行ってきた。現在、世界の通信業者上位20社のうち15社が、ネットワークおよびサービス管理システムにアイログ・ベースのソリューションを採用している。

アイログは、Java技術の利点を活かした通信システム向け共通APIの開発および仕様策定を目的とした、ワールドワイドの開発者コミュニティであるOSS/J (OSS Through Java) イニシアティブに参加している。また国内では、日本におけるOSS/Jの本格的な普及を目指した「OSS/J 協同検証プロジェクト」を各社と協力して推進している。アイログは、このような活動を通じて、通信業界者がJavaのオープン性や再利

用性を活かすことで統合作業の簡略化やコストの削減を実現するための支援を展開している。

ILOG JViews™

アイログの視覚化製品。ILOG JViewsを基盤にしたソリューションは、テレコム産業のデファクト・スタンダードになっている。ILOG JTGOは、OSSのためのGUI用コンポーネントを付加した視覚化ツール。

ILOG JRules™ BRMS (Business Rule Management Systems ビジネス・ルール管理システム)

プロセスおよびイベント管理に反応性と柔軟性を組み込むことにより、巨大なネットワークを管理することができるようになる。また、課金や受注管理システムの効率化を図ることができる。

お問い合わせ先

Email: info@ilog.co.jp TEL:03-5211-5770

アドベントネット株式会社 (<http://www.adventnet.co.jp/>)

ネットワーク管理システム開発プラットフォーム 「AdventNet Web NMS 4.7」

アドベントネット社は、今回のTMW A-Pにおいて、「AdventNet Web NMS 4.7」の展示を行った。ネットワーク管理システムの開発プラットフォームであるAdventNet Web NMS 4.7は、ネットワーク管理システムの開発、カスタマイズ、テスト、パッケージングのための各種ツールやウィザードをバンドルしており、効率よく短期間でネットワーク管理システムを構築することができる。また、大規模ネットワークの管理や信頼性の向上のための機能をあらかじめ提供しているため、さまざまな管理ニーズに対応できる管理システムを構築することができる。さらに、多くの通信プロトコルをサポートし、標準化された技術を利用しているため、他のシステムとの連携が容易で、長期的に使用できるシステムを構築することができる。

インストールと設定後に、すぐ使うという製品ではなく、管理ニーズに合わせて、プログラミングや各種設定を行った

後、実環境にインストールして利用することを前提に開発されたプラットフォーム製品で、機能拡張や設定変更が柔軟かつ容易にできることが特徴である。そのため、通信キャリアの厳しい管理ニーズにも対応でき、低コストでカットオーバーし、その後、機能拡張をしながら長期的に利用していく、といった運用が可能である。

このような特徴から、OSSのネットワーク管理機能について、市販のポイントソリューションをそのまま適用するというアプローチとは異なる、OSSの一部に独自要件を持ったネットワーク管理システムを構築するというケースで、基盤製品として利用されている。

以上のような開発プラットフォームとしての長所を、来場者に理解してもらうことをポイントとした展示を行った。

お問い合わせ先

TEL: 045-412-5601

株式会社エクサ (<http://www.exa-corp.co.jp/>)

自社開発および海外有力ベンダーのソフトウェアを ベースとしたネットワーク管理システム (NMS) を提供

エクサは、システム基盤管理ソリューションの1つとして、自社開発および海外有力ベンダーのソフトウェアをベースとしたネットワーク管理システム (NMS) の開発・販売を行ってきた。お客様の多岐にわたる要求を実現するため、専門的なネットワーク管理ノウハウと、Web、Java等を用いたアプリケーション開発技術を駆使して、市販ソフトウェアの適用から各種インテグレーションまで含めた、さまざまなソリューションを提供している。

今回のTMW A-Pでは、特に通信事業者向けに、魅力的なサービスを早期に提供するためのソリューションコアとして、エクサが販売代理店契約を締結しているMicromuse社の「Netcool[®]」およびAdventNet社の「Web NMS」を展示した。各製品の特徴は次のとおりである。

Netcoolは、複数のネットワーク管理システムを統合し、ネットワーク・イベント全体を1つのコンソールで管理する

ことができる。また、ネットワーク・プロビジョニングシステム、インベントリ管理システムや顧客管理システムなどと連携することで、障害の影響が及ぶネットワークおよびサービスの範囲の特定、対応優先順位付け、根本原因解析などを行なうことができる。これらの機能により、ネットワークサービスの運用コストを削減することが可能である。

Web NMSは、高いカスタマイズ性を持つネットワーク管理フレームワークを中心に、ネットワーク管理関連のさまざまなニーズに対応した豊富な製品群を取り揃えている。製品のほとんどはJavaで開発されており、またオープンな技術を採用することにより、優れた柔軟性を実現している。

お問い合わせ先 ユビキタスソリューション営業部

E-mail : nmssol@exa-corp.co.jp

TEL : 044-540-2375

コンバージェス・ジャパン株式会社 (<http://www.convergys.co.jp/>)

コンバージェント・ビルディング・ソフトウェア 「Infinys™ GENEVA™ Rating & Billing」

コンバージェス社は、従業員約6万人を擁し、全世界でカスタマ・コンタクト・センター、データ・センターなどを持ち、サービスを提供している。コンバージェス社の製品であるInfinys™ GENEVA™ Rating & Billingは、コンバージェント・ビルディング・ソフトウェアである。従来のビルディング製品と違い、多大な時間とコストをかけてソフトウェアのカスタマイズを行う必要がなくなるため、新しいサービスを市場に投入するまでの時間を短縮し、顧客管理を改善することにより、キャッシュフローの最適化を可能にする。また、スタンドアロンシステムとしても、低リスクで既存のOSS/BSSシステムと統合できるモジュール型ソリューションとしても利用することができる。

通信事業者など大規模システムにも対応可能なコンバージェント・ビルディング・ソフトウェアのInfinys™ GENEVA™ Rating & Billingは、次世代サービスに関する革新的な機能を加えたことによって、次世代のビルディングをサポートしている。

イベント主導型アーキテクチャとネットワーク環境からの独立性を組み合わせた独自の設計思想に基づくInfinys™ Rating & Billingは、あらゆるサービスのレーティングとビルディングに対応し、業界を問わず全てのビジネス・モデルをサポートしている。

また、Infinys™ GENEVA™ Rating & Billingは、顧客と商品の情報を総合的に把握することが可能であり、さらに、事業拡大を効率的にサポートする構造的な柔軟性とスケラビリティを持ち、複雑な料金設定や階層設定、複数サービス、パナ間決済、複数通貨などにも対応しているため、TCOの削減を実現することができる。

お問い合わせ先 営業部

E-mail : info.jp@convergys.com

TEL : 03-5114-5670

SAP ジャパン株式会社 (<http://www.sap.co.jp/> 英文サイト <http://www.sap.com/>)

OSS と BSS の垣根を越えた連携を実現する SAP のソリューション

2003年にTM Forumへの加入を果たしたSAPは、2004年には、SAP ジャパンとしてTMW A-Pに出展を行なうなど、精力的にTM Forumを意識した活動を展開している。

伝統的な『ERPベンダー』というイメージが先行しがちなSAPだが、世界各国の500を数える通信キャリアに、バックオフィスシステムとして採用され、ドイツテレコム、MCI、Verizon、Telstra、SKテレコム、といったTier1キャリアにおいても、安定した稼働実績を誇っている。

また2003年は、グローバルCRMベンダーとしては、シェア第1位の評価を受け、コールセンタ・債権管理を含めた統合的なBSSを包括的に提供できるベンダーとしての認識が、広く通信キャリアに定着してきた。

一方OSSの領域においては、本来的なERPの機能領域で十分カバーし得るものと考えているが、SAPならではの付加価値として、eTomモデルで示されているところの

“Enterprise Management”領域の充実がある。TOMの時代より、SAPはEnterprise Management関連の強力なリアルタイムビジネス管理機能を備えており、初期ユーザーから絶大な支持を獲得してきた。このような観点で、SAPは製品ベンダーとして、TM ForumのeTomモデルの実際的な裏打ちができていると考えている。

通信キャリア各社のビジネスモデルが劇的に変化している今日、即応する新たなOSSやBSSを廉価、かつ統合的に提供可能なSAPへの期待が高まっている。

お問い合わせ先

E-mail : ma.nakano@sap.com (中野正人)

TEL : 03-3273-5223

日本 BEA システムズ株式会社 (<http://www.beasys.co.jp/>)

柔軟性と将来性に優れ、コスト効果の高い OSS/BSS 基盤を構築する 「BEA WebLogic OSS/BSS Platform Solution」

新サービスをタイムリーに投入し、顧客との関係を維持・強化するには、OSS/BSSは通信事業者にとって重要な役割を担っている。BEA システムズ社の通信業界向けソリューション「BEA WebLogic OSS/BSS Platform Solution」は、通信事業者が直面している課題を解決するソリューションである。

BEA WebLogic OSS/BSS Platform Solution は、通信界向けに実績に基づいてデザインされた柔軟性・拡張性の高い OSS/BSS 基盤ソリューションである。これまで独立して構築されていた各 OSS/BSS システムを有機的に連携し、将来の拡張性を考慮したアーキテクチャによる OSS/BSS 基盤を構築し、顧客との関係を強化することで、顧客満足度の向上を確かなものにして、ビジネスパートナーとの連携を密にした迅速な対応を実現している。また同ソリューションは、IT 基盤レイヤーと業務実装レイヤーから構成されている。IT 基盤レイヤーは、ソリューションの技術基盤となる各コンポーネ

ントから構成され、各コンポーネントは、システム面から要求される機能を備えており、柔軟性・拡張性の高い IT 基盤環境を提供する。一方業務実装レイヤーは、実現する業務単位で実装が可能なレイヤーである。実装例として、サービスオーダー（登録、開通、業務のフロースルー化）、トラブル管理（故障発生時のプロアクティブな対応）、セルフケア、パートナー連携（B2B ゲートウェイ）、システム統合（OSS/BSS インテグレーション）などの業務があげられる。

BEA システムズ社では、BEA WebLogic OSS/BSS Platform Solution の導入のために、OSS/BSS アセスメントサービス、OSS/BSS 基盤プロジェクト支援サービス、ミッションクリティカルサポートなどのサービスメニューを提供している。

お問い合わせ先 営業担当

E-mail : sales.jp@bea.com TEL : 03-5545-8440

マイクロソフト株式会社 (<http://www.microsoft.com/japan/serviceproviders/>)

サービスプロバイダーの運用における敏捷性を向上させる 「Microsoft NGOSS Framework」

マイクロソフトは、長年にわたり TM Forum に参加し、現在、XML および Web サービステクノロジーを広範に使用した NGOSS を実現するために、他の TM Forum 参加企業とともに積極的に活動に参加している。OSS/BSS の領域では、Microsoft .NET テクノロジーを活用する情報通信事業者が増加しており、導入と運用にかかるコストの削減や、柔軟性と生産性の向上という観点から、XML および Web サービスを使用することの利点を実証されている。

マイクロソフトでは、サービスプロバイダーが実際に NGOSS をテスト・展開できるよう、NGOSS 仕様を調整し、有効なソリューションコンポーネントに具体化することに重点を置いた取組みを展開している。その最初の試みとして、NGOSS SID (Shared Information/Data) モデル仕様 (GB 922) を、一連の XML スキーマ ファイルとして BizTalk XML スキーマ エディタに実装した。これにより、サービスプロバ

イダーが SID モデルを ERM (Enterprise Reference Model) として活用する場合、必要に応じて“ビジネス エンティティ” (オブジェクト) や属性を削除することで制限したり、そのサービスプロバイダーに固有の属性を使用して拡張するなど、レガシーアプリケーションの統合を容易に実現できることを証明した。また、2004年5月にフランスのニースで開催された TMW Nice 2004 では、XML および Web サービスに基づいた NGOSS の早期実装のデモンストレーションを BizTalk Server 2004 上で行い、2つの“Catalyst プロジェクト”を発表した。マイクロソフトは、これらの取組みで培った経験を生かし、マイクロソフト製品で NGOSS ベースのアーキテクチャを評価・実装する際に非常に有効な機能を、一連のツールに統合している。

お問い合わせ先 通信・メディアソリューション本部

TEL : 03-4523-3730

マイクロミューズ・ジャパン株式会社 (<http://www.micromuse.com/>)

OSS / BSS を支える革新的な ネットワーク管理ソリューションを提供

マイクロミューズ社は、革新的なネットワーク管理ソリューションを提供し、コアコンポーネントである「Netcool[®] スイート」は、世界上位20社の大規模通信会社および1,600社を超えるエンタープライズ企業で採用されている。その背景には、広範囲にわたる通信機器、デバイス、システム、アプリケーションをサポートしながら、卓越したイベント収集能力を持っている。これにより、集めた情報をリアルタイムにさまざまな視点で情報を表示し、問題をいち早く解決することができる。

また、さまざまなシステム、ツールが複雑に存在する顧客の環境では、いかに統合的に、効率よく管理できるかが、コスト削減、サービスレベルの維持、収益の確保につながる。マイクロミューズ社のNetcool[®] スイートは、その課題を解決できるソリューションである。

ビジネスサービスマネージメント

マイクロミューズ社は、強力なイベント収集能力で集めた情報をもとに、ビジネスサービスマネージメント(BSM)のソリューションをお客様に提供している。ITインフラストラクチャが個々のビジネスを支えていることは言うまでもないが、旧世代の管理製品は閉じられたシステムの可用性を高める目的のものが大半であった。マイクロミューズ社のネットワーク管理ソリューションは、ビジネスの視点から、そのビジネスに関係しているネットワークを含めたシステムの状況を把握することで、顧客はビジネスごとにパフォーマンスを把握でき、可用性を維持しながら、障害によるそれぞれのビジネスに与える影響を最小限にすることができる。

お問い合わせ先

E-mail : japan@micromuse.com TEL : 03-5778-7624

セミナー開催のご案内

マイクロミューズ「通信業界向けソリューションセミナー」

競争が激化している通信業界において、差別化と効率化を図るための新しいソリューションが求められています。本セミナーでは、事例紹介を含めてマイクロミューズの新しいソリューションであるビジネスサービスマネージメント(BSM)とパフォーマンスマネージメントの紹介をさせていただきます。

【開催概要】

日時：11月22日(月) 13:30 ~ 17:30
会場：東京コンファレンスセンター・品川
(地図：http://www.tokyo-cc.co.jp/access_s.html)
定員：70名 参加費無料

【申込受付】弊社Webサイトにて受付

<http://www.micromuse.com/int/jp/events.html>

【プログラム概要(予定)】

1. オーストラリアの通信会社TelstraによるNetcool[®]を使用した最新事例紹介(予定)
2. ビジネスサービスマネージメント(BSM)ソリューションの紹介
3. Impact 3.1新バージョンの紹介
4. InfoVistaによるパフォーマンスマネージメントソリューションの紹介

お問い合わせ先 マイクロミューズ・ジャパン株式会社
〒107-0061 東京都港区北青山3-6-7 青山パラシオタワー11F
TEL:03-5778-7624 FAX:03-5778-7676
E-mail:japan@micromuse.com URL:<http://www.micromuse.com/>

